

雜 報

會 員 動 靜

| | | | |
|---------------|-----------------------------------|------------------------|----------|
| 資源審議會臨時委員被仰付 | 正七位 矢野恒太 (七月十八日) | 輜重兵第十一大隊附陸軍一等軍醫 | 井上文夫 |
| 叙正四位 | 從四位勳四等 敷波重次郎 | 免本職補步兵第七十七聯隊附 | |
| 叙從六位 | 永松休光 (六月十五日) | 旭川衛戍病院附陸軍一等軍醫 | 森定惠 |
| 任陸軍軍醫監 | 陸軍一等軍醫正從五位勳三等功五級 出射一郎 | 免本職補大阪衛戍病院附 | |
| 任陸軍一等軍醫正 | 陸軍二等軍醫正從五位勳三等 武部元雄 | 姫路衛戍病院附陸軍一等軍醫 | 大橋要人 |
| 任陸軍三等軍醫正 | 陸軍一等軍醫從六位勳五等 陸軍一等軍醫從六位勳五等 山田昇 山中茂 | 免本職補騎兵第十聯隊附 | 大田澄 |
| | 陸軍二等軍醫從七位 丹原驍夫 | 免本職補步兵第十三聯隊附 | |
| | 陸軍二等軍醫從七位 馬場武 | 步兵第二十一聯隊附陸軍一等軍醫 | 小出宗次 |
| | 陸軍二等軍醫從七位 森定惠 | 免本職補陸軍運輸部附 | |
| | 陸軍二等軍醫從七位 毛利明弘 | 臺北衛戍病院附陸軍一等軍醫 | 丹原驍夫 |
| | 陸軍二等軍醫從七位 大田澄 | 免本職補鷄知重砲兵大隊附 | |
| 任陸軍一等軍醫 | | 工兵第十大隊附陸軍二等軍醫 | 岸本春榮 |
| 第十師團軍醫部長軍醫監 | 出射一郎 | 免本職補遼陽衛戍病院附 | |
| 免本職補第二十師團軍醫部長 | 陸軍一等軍醫正 武部元雄 | 陸軍三等軍醫正 | 白玖壽雄 |
| 補習志野衛戍病院長 | | 依願豫備役被仰付 | (七月二十六日) |
| 補步兵第十聯隊附 | 陸軍三等軍醫正 山中茂 | | 得能孝平 |
| 補鳥取衛戍病院附 | 山田昇 | 健康保險法施行令第六條第一項第一號ニ依リ香川 | |
| | | 第一次健康保險審査會委員ヲ命ス | (七月二十六日) |
| | | 七級俸下賜 防疫醫 | 池田正行 |
| | | 秋田縣防疫醫ニ補ス | (八月八日) |
| | | 任岡山醫科大學助教授 | 武田俊光 |
| | | 叙高等官七等 | |
| | | 岡山醫科大學助教授 | 武田俊光 |
| | | 本俸十一級俸下賜 | |
| | | 職務俸金六百圓下賜 | (八月十三日) |

○本多 稔君 は今般本縣都窪郡倉敷町中央病院物療科に轉勤せられたり

- 松岡元治郎君 は豫て鳥取市伊藤病院に勤務し居られしか今般和歌山市小松原通一丁目金森病院に轉勤せられたり
- 岡上富貴男君 は豫て鐘紡岡山絹絲工場に勤務し居られしか今般辭職歸郷せられたり
- 武田 光 治君 は今般當市一番町に於て開業せられたり
- 松林保太郎君 は今般廣島市千田町に於て開業せられたり
- 井上幸藏君 は今般廣島縣御調郡吉和村に於て開業せられたり

小林團市君逝く 君は明治三十四年岡山醫學專門學校を卒業し岡山縣病院に勤務し後島根縣今出町に於て開業し居られしか去月三十日遠逝せられたりと洵に痛惜に堪へず謹みて弔意を表す

大木與四郎君逝く 君は明治三十一年岡山醫學專門學校を卒業し長崎縣に於て開業し居られしか去月二十九日病を以て永眠せられたりと洵に哀悼に堪へず謹みて茲に弔意を表す

- 武田俊光君略歴 今般岡山醫科大學助教授に任せられたる同君の略歴は左の如し
- 大正七年四月岡山醫學專門學校に入學し同十一年五月岡山醫科大學附屬專門部を卒業
- 同年五月岡山醫科大學副手を囑託せられ附屬醫院物理療法科教室に勤務
- 同十二年一月同院「レントゲン」科技術を囑託せらる
- 同十三年十二月「レントゲン」學研究の爲め滿二年間獨逸國、奧地利國、亞米利加合衆國へ在留を命せられ同十四年三月出發し昭和二年六月歸朝す
- 同年七月岡山醫科大學講師を囑託せられ今日に至る

岡 山 醫 學 會

同會通常會は本年九月二十二日午後三時より岡山醫科大學臨牀講義室に於て開會の筈なり

新 刊 紹 介

ルエス 日本黴毒學會の機關誌「ルエス」は黴毒に關する研究事項を發表し専ら臨牀上の諸問題就中治療に關した事項を紹介する等の使命を以て今般第一卷第一號を發刊せり其内容は論叢、臨牀、學會、資料等に分てり、發行所は京都帝國大學醫學部皮膚科教室内同會事務所なり

●正誤：本誌本號 111 頁山縣論文獻 31) Edinger u. Wallenberg* ハ Neur. Centralbl. 1922 ノ誤リ